

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679600082
法人名	医療法人 沖縄徳洲会
事業所名	グループホーム ゆんぬ
所在地	鹿児島県大島郡与論町茶花302番地5 (電話) 0997-81-3919
自己評価作成日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所主体である医療法人と医療連携体制を整え、利用者、家族等の安心に繋がっている。特に個々の自立支援と地域との交流に力をいれている。本人の能力に応じて、今出来る事がいつまでも出来るように声かけ、励ましながら行っている。地域の方が気軽に立ち寄れる様な雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、与論島の中心地、茶花にあり与論空港や与論港からのアクセスも良く、小学校や認定こども園、町役場、母体の医療機関、商店街があるなど利便性が良い立地環境にある。「ゆんぬ」という名前は、与論島に由来し、2つのユニット名も、地元の言葉でマチギ棟(松)、ダイ棟(竹)と命名されている。行事や食事を兼ねてユニット全体で交流が行われ、平均の年齢が92歳と高く100歳を超える方も数名おられるなど男性・女性とも活気があり、元気な様子が伺える。

年2回程度は、家族と一緒に昼食にクリスマス会、忘年会などをして利用者や家族、職員との親睦を図っている。外食は主に家族に依頼しているが、手作りの弁当、ソーメン汁を携えて海にハイキングに出かけている。与論島の郷土料理は、魚料理が中心であるが、行事食は両ユニット一緒に郷土料理をバイキング式で提供するなどして、昔ながらの料理を堪能し懐かしむことができるよう工夫している。近所や家族からの野菜の差し入れも多い。また、能力に応じて食事の準備や片付けなどを手伝ったり、本人の役割になっていたり食事を楽しみとなるよう支援している。利用者は、職員の見守りを受けて一緒に食事を楽しんでいる。

母体の医療機関とは、24時間医療連携が図られ、訪問看護師による健康チェックもある。重度化した場合などは、主治医の指示・指導のもと、必要な医療を受けながら治療や終末期ケアのため、時に入院による医療連携が図られている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関、キッチン、事務室に事業所理念を掲示し毎朝の申し送り後に皆で理念を唱和し実践に繋がっている。	地域密着型を意識した理念は、限りあるのちや時間を大切にとの思いが込められた理念であり、7年前に職員にアンケートを実施して話し合っつくったものである。事業所内に掲示し、また「園便り」に掲載して常に意識している。職員は、申し送り時に唱和し理念を共有して実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ヨロンマラソンの応援など地域の行事に参加している。中学生や高校生の職場体験の場としても利用してもらい民生委員グループの訪問や地域の方から野菜などの差し入れも頂いている。	三線の演奏のボランティアや中学性や高校生の職場体験の受け入れ、小学生との交流活動があり、地域行事にも参加したり、与論マラソンでは、太鼓などの音楽で盛り上げ応援するなど地域と一体となり恒例のイベントを応援している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小中高校生との交流や職場体験時に地域包括支援センターの協力を得て、キャラバンメイト養成講座に参加してもらい認知症について理解してもらえるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回推進会議を行い事業所の活動報告や意見等を聞きサービス向上に繋がっている。話し合いの内容は議事録により職員間で共有し日々のケアに役立てている。	避難訓練や敬老会と同時に会議を開催し、より多くの家族の参加ができるよう工夫している。管理者は、会議がマンネリ化することがないように職員や会議メンバーに、意見・提案などを、聞けるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者2名に推進会議役員をお願いし連携を密に取っている。日々の業務の中で疑問に思うことは相談し指導を受けている。	町福祉課、地域包括支援センター、福祉事務所職員との連携や協力体制があり、入所相談に応じたり、イベントの協力や研修会への案内もあり積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一回身体拘束委員会を開催し適正化に努めている。勉強会も定期的に行い禁止の対象となる具体的な行為など正しい理解に努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠について必要な場合のみご家族の同意を得て行っている。	指針の整備をおこない、3ヶ月ごとに適性化のための会議を開催している。不意に車いすで外に出て行かれる方がおられるため、家族に理解を求め安全を確保している。定例の会議やカンファレンスなどで三原則についても十分に理解した上でなるべく拘束的な環境とならないよう（施錠しないよう）取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士注意し合いミーティング等により言葉や態度など確認し合っている。又勉強会へも積極的に参加している。自宅で虐待があったケースは自宅への外出は控えていただき施設内での対応としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	直接専門家から話を聞く機会や勉強会に参加する機会は少ないが、資料をもとに勉強する様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時はもちろんその都度説明を十分行い、不安や疑問なく理解納得して頂けるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情などは苦情ノートに記載し全員で確認し対応方法を検討している。何でも相談しやすいよう普段からコミュニケーションを取るよう努めている。又、玄関にご意見箱を設置している。</p>	<p>家族は、職員と顔見知りの方も多く関係性は良好である。家族会や忘年会などを活用したり、日頃からコミュニケーションを取り、意見や提案が出しやすい雰囲気作りに努め信頼関係を築くよう取り組んでいる。苦情ノートに意見が記載されている時は、ミーティングなどで話し合い、改善に取り組み再発防止に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングでは、ケアの仕方などの業務改善に向けた意見や提案の他、現場の困り事など全員で話し合い、サービスの向上に繋げている。</p>	<p>管理者と職員は、随時面談しケアの向上・就業環境の改善に向け、ミーティングで意見交換し話し合っている。離島なので、外部研修への参加が難しいため、インターネットなどを活用し研修をするなどして自己研鑽している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人規定により給与改定を行い昇給等により職員のやる気を引き出している。又、臨時職員から正規職員への採用も積極的に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	e-ラーニングやインターネットを利用し職場内研修を行っている。島内で研修会が開催される場合は全員参加を促し、参加出来ない職員には資料を提供し質の向上に努めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	島外のGHと連絡を取り合いGH協議会の主催する勉強会に参加するなど質の向上が図れるよう努力している。又当施設の母体である病院での勉強会などは積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用前に本人と面談を行い関係機関からの資料などを参考にしながら、不安、要望、困りごとなどを聞き取り安心して利用できるよう説明を行っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用前に家族と面談を行い不安、要望、困りごとなど聞きとり安心できる様説明を行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の思い等を確認し、本当に必要なサービスは何かを話し合いながら対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活歴を把握し、本人のペース、希望を取り入れて出来ることは自分で行える様に見守り、介助し励ましながら共に支え合い信頼関係を築く努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を一番に考え、面会時等は本人の生活の様子を知らせ、要望等を職員に伝えやすい雰囲気を作っている。又本人と家族が気兼ねなく話をしたり接する事が出来るよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に居た時と同様に接する事が出来るよう面会時などは快く迎え話しやすい雰囲気作りに務めている。又ドライブで自宅の側やなじみの場所を通ったり立ち寄りして関係性を持つようにしている。	電話の取次ぎや手紙、面会なども多く、ドライブをしながら自宅訪問や墓参りをしたり、行きつけの店でこだわりの商品を購入するなど、本人がこれまで大切にしてきたことが続けていけるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士それぞれの関係や性格など配慮し座席の位置など決めている。又職員が間に入るなどして良好な関係が保てるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後長期入院となった場合など病院に行く際見舞いをしている。又必要時に相談し易い様家族に対しても日頃から会った時には挨拶をしたり声をかけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り自宅での生活に近づけるよう日々の会話の中から聞き取り把握している。困難な場合は家族から昔の様子などを聞き本人の立場に立って考えている。	本人の言葉や行動、何気ない表情やしぐさなどを参考に、職員間で意見を出し合ったり、家族に意見を聞きながら、本人の思いや希望を聞き取り本人に寄りそうケアができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、本人又は家族、関係機関から情報を集め職員間で共有し入居後のケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズム、体調の変化を把握し今出来る事は何かどんな事が難しくなってきたかなど、日々の記録から確認出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りや定期的なミーティングにより現状の課題について確認し必要時には家族に連絡をとり相談し今後のケアの方向性を決めている。又新規計画作成後は本人家族と共に計画内容を確認しそれぞれの同意のもと実践に繋げている。	モニタリング結果を踏まえ、課題を抽出し3ヶ月～6ヶ月ごとにカンファレンスをおこなって話し合い、本人の目指す目標や楽しみ、役割などが反映された介護計画書になっている。家族には、担当者会議や電話などでその都度分りやすく説明し話し合われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し朝の申し送りやミーティング等で話し合い、介護計画の見直しを行いながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時や必要時主治医と相談しながら定期的にマッサージ、通院、美容、理容、買物、自宅への送迎など柔軟に対応している。時には事業所の交流室を開放して家族での誕生会の場を提供するなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や病院の協力を得て消防訓練BLS訓練を行っている。又行事の際は地域の方に演芸等への協力をして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医になっており殆どの入居者が月1回受診し必要に応じて検査や薬の調整などを行い安定した状態で生活できている。又体調変化時には時間、曜日を問わず相談し、受診への支援を行っている。	職員が、外来受診を支援し病状変化などは家族に説明してもらっている。内服薬は、院内処方で一包化してもらい誤薬のリスク軽減に努めている。訪問看護師が週1回健康チェックなどのため訪問、24時間医療連携が図られている。協力医療機関は、車で5分程度の位置にあり便利がよい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>1回/Wの訪問看護にて、介護職員がいつでも相談できる体制になっており良好な協働関係が築けケアにも反映されている。又パートの看護職員もおり少し気になる事なども気軽に相談できている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>常に病院関係者と情報を交換し入退院の際スムーズな支援ができています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時重度化した場合の対応について事業所で出来る範囲を説明し理解して頂いている。又、年一回緊急時の対応方法の確認も行い、救急搬送や受診の際は救急隊や病院に情報提供している。</p>	<p>重度化した場合は、早い段階から本人、家族と話し合い主治医の指示・指導のもと、入院による病院との医療連携を図りつつ、ぎりぎりまでホームで介護するといった終末期ケアや他職種連携にて多様な専門職や社会資源の活用により納得のいく最期を迎えられるよう支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDの勉強会や応急処置の訓練を行い急変時に備え常に職員が確認できる場所にマニュアルを備えてある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立ち合いで、昼夜間想定 の消防避難訓練を年2回行っ ている。又、地震、津波の避難に についてもマニュアル化して訓練 を行っている。防災グッズも備 えている。</p>	<p>年2回、運営推進会議と同時に昼夜想 定の避難訓練を実施している。隣り近 所の地域の方の協力体制もあり、ま た、町内には防災無線で呼びかけるし くみがある。避難場所は総合体育館に 指定されているが、マニュアルを順守 して訓練時は避難経路の確認をしてい る。水や食料品などの備蓄をしてい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬意を持ち、その人の誇りやプライドを大切に接している。	地元の方言を活かし、誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉使いや対応には注意を払っている。不適切な対応などしないよう研修を定期的実施し意識づけしている。ポータブルトイレは布を被せるなどしてプライバシーに配慮したり、使用しない物は、倉庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を伝え自分で決める事が出来るようゆっくり話を聞き話し易い関係作りに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人のペースや思いを優先し職員の都合を押しついたり無理強いをしないよう努めている。又希望によって外出、レクリエーション、家事参加等の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望によってなじみの美容室、理容室に訪問してもらっている。行事の際は髪を整え正装しコサージュを付けるなどお洒落を楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には皿拭き、盆拭き、テーブル拭き、野菜のつくろい、盛り付けなど役割として行ってもらっている。食事の際は花を生け音楽を流して雰囲気も楽しんでいる。弁当を持って海などへの遠足にも出かけている。	それぞれの職員がその日に献立をつくり調理している。行事食には郷土料理も取り入れられ、料理を通じて昔を懐かしむ機会を設けて利用者、家族、職員と一緒に食事を楽しんでいる。また、手作りの弁当やソーメン汁を持って遠足に出かけることもある。能力に応じた手伝いがあり、地域や家族などから野菜などの差し入れがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の変化に合わせて主治医と相談しながら食事量、形態、飲水量を調整している。毎食、食事量や飲水量を記入し、必要に応じ介助したり声かけを促している。器やスプーンなどの選定工夫と姿勢に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きなどそれぞれの状態に合わせたケアを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	体調管理表に排泄パターンを記録しその人に合った介助方法で支援している。殆どの方が、日中はトイレにて排泄出来るよう声かけし、介助支援している。	一人ひとりの排泄のリズムや排泄習慣を把握し昼間はトイレで排泄し夜間は、ポータブルトイレを併用し排泄できるようにしている。特に声かけや羞恥心などプライバシーには注意を払い排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維物の多い野菜を多くとり水分量を把握し体操などで体を動かす機会をつくり内服薬の調整などして自然排便が出来るように対応し予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日を決めずに体調希望にそって入浴している。（職員の出勤時間の都合で希望どおりできない時間帯もある）又自分で出来る事は見守り、出来ない事だけ介助している。	本人の希望や体調、必要性などに応じて入浴ができるよう努めており、タイミングよく入浴していただき気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。洗身などは、なるべくセルフケアを心がけ本人の入浴方法に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩や睡眠は自由に取れるようにしている。又生活リズムが自然に整うように日中は自ら楽しく参加してもらえようなレクリエーションを工夫したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬状況を確認出来るよう個々の記録簿に服薬中の薬情報を綴じている。又服薬の間違いないよう毎回2人体制で確認し服薬してもらおう。朝夕のバイタルサインチェック、一般状態の観察を行い症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などを参考に役割や楽しみが行えるようにしている。外出の機会を作ったり地域の行事に参加するなど楽しみごとが増えるようにしている。お盆や正月等には島の風習に合った食事の提供により雰囲気味わえる様工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候に合わせて買い物やドライブなどに出かけられる様支援している。又、家族との外出にも協力してもらっている。	利用者に希望を聞いたり、職員の提案により外出先を決めて、本人の家に立ち寄った時には、畑や近くの海の様子も見に行っている。島には、高い山はなく、周囲は青々とした美しい海に囲まれている。地元で暮らしてきた利用者が生まれ育った地域や海などを見にいつでも帰ることができるよう家族にも外出を支援してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>1人1人の能力に合わせ支援している。買い物が可能な方については希望時買い物に同行している。難しい方については必要物は職員が代行している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望時電話をかけたり、家族からの電話を取り次いだりしている。又島外に住む家族、知人、友人などの手紙の代読や入居者の書いた手紙をポストに入れる等の支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日当たりや風通しがよく静かで居心地がよいように作られている。又空調管理にも気を付け入居者が快適に過ごせるようにしている。玄関ホールには季節の花を飾っている。又、利用者が行ったぬり絵などの作品も飾っている。</p>	<p>採光や風通しの良い建物で、両ユニットが繋がり、互いに行き来して交流ができる構造になっている。玄関には生花が活けてあり廊下も広々としている。ソファが設置してあり、テレビ鑑賞をされる方や対面キッチンからは料理の匂いや音などが五感を刺激し温かみのある共有空間になっている。壁には、外出先での利用者の写真やぬり絵などの作品などが掲示されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う同士で玄関前のソファでくつろいだり和室でTVを観たり思い思いに過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望する物や使い慣れた物は自由に持ち込めるようにしている。物が多くなりすぎて生活に支障が出ない様本人、家族と相談しながら居心地よく過ごせる様工夫している。	入居前の環境に配慮した環境整備や使い慣れた物、家族の写真などを持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。手紙を書くのが趣味で、毎日、「備忘録」を習慣にしておられる方の居室はまるで自宅の書斎にいるかのようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており自由に安全に移動できるようになっている。洗面所やトイレ等には分かりやすい様絵や昔から使い慣れた表現を用いるなど自立した生活が出来るよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない